

「地域社会を核とした教育と研究のつながり」に向けて

社会科教育講座・松野尾 裕

1. 授業の概要

科目：経済学 3、後期・木曜日 3 限

授業題目：人間の経済（human economy）

授業のキーワード：生計（livelihood）、生活の質（quality of life）、ディーセントワーク（decent work）

授業の目的：現代経済を人の生活にふさわしい“人間の経済”へ回復させるという問題意識を基礎に置き、21 世紀の経済社会が直面する諸課題とその解決策を捉えることができるようになる。

授業の到達目標：(1) 日常生活や地域社会に生起する経済的諸問題に関する基礎的な文章を作成することができる。(2) 経済学、生活学、社会政策学等に興味を持つことができる。

愛大学生コンピテンシーとの関連：○個別の知識や技能を相互に関連付けながら習得できる。○習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立てたり、適切に表現（記述・口述）できる。

授業概要：20 世紀の日本では、経済効率至上主義で構築された社会システムのなかにあつて、「人間としての尊厳が保障される生活と働き方」が見失われ、家族や地域に本来あるはずの支え合い（くらしの協同）を失うこととなった。授業では、家事やボランティア活動、非営利企業など非市場領域における経済活動も視野に入れ、すべての人にとって尊厳ある生き方・働き方を可能にする社会を構築するための方策を探究する。今年度の授業は、テキストを用いて、それに基づく発表と討論により進められた。

受講者数：5 名（初等教育小学校サブコース 3 年 3 名、中等教育社会科教育専攻 3 年 2 名）

2. 授業評価アンケート：結果と分析

アンケート項目は授業者が作成した。

回答者数：3 名

アンケート結果：

(Q1) 本授業は下記の項目のどれに役立ちましたか。

5 段階評価（大いに役立った） ←→ （役立たなかった）

(DP)	5	4	3	2	1
専門的知識の修得	0	3	0	0	0
技能の修得	0	2	1	0	0
諸課題への対応	0	3	0	0	0
主体的な社会貢献	0	2	1	0	0

(Q2) 毎時限の授業のなかで生活、地域、格差、協同、ジェンダー等のテーマとの繋がりを意識した学習が出来ましたか。

5 段階評価（大いに出来た） ←→ （出来なかった）

(テーマ)	5	4	3	2	1
生活	0	3	0	0	0
地域社会	0	2	1	0	0
生活経済	0	3	0	0	0
格差社会	1	2	0	0	0
くらしの協同	0	2	1	0	0
経済とジェンダー	1	1	1	0	0

(Q3) 教育学部の「地域志向型カリキュラムの整備・充実」にとって、経済学の授業で特に重要なテーマ（学習課題）だと考えるものを選んでください。複数可。

○子どもの生活 (3) ○青年の生活 (0) ○高齢者の生活 (1) ○雇用問題 (2) ○貧困問題 (3) ○農林水産業の課題 (0) ○過疎地域の課題 (3) ○公共交通の維持・整備 (0)、グローバル化への対応 (0) ○その他（具体的に）なし

3. まとめ

アンケートの結果から、本授業は、DP との関係では「専門的知識の修得」及び「諸課題への対応」に役立っている。また「格差」や「ジェンダー」等を意識した学習が出来ている。地域志向型カリキュラムの充実に向けては、「子どもの生活」「貧困問題」「過疎地域の課題」等を軸に、学生の問題意識に沿って、地域の未来に希望の持てる授業内容をつくっていく。